

2023 年 11 月 11 日(土)夜『神聖で繋がり合う日』 メール前文と始めの話

2023 年 11 月 11 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

“人間があるべき本来の姿”について想いを致しますと、日常の一瞬一瞬に五感と心をフル稼働して喜びを感じ感謝し感動して、その気持ちを縁ある人々と共有しながら、大自然に畏敬の念を抱きあらゆる生物と共生している人々の姿が思い浮かびます。

それに対して、先進国と呼ばれる地域に住む私達現代人はどのように生きてきたでしょうか？合理性を追求して無駄を省き、時間に追われて生きる生活のなかで、素朴な喜びはなおざりにされ、感謝は自己都合のみで行なわれ、無邪気さや感動する感性をもどこかに置き忘れ、自己もしくは組織の利益追求に勤しんできたケースが多かったのではないのでしょうか。

(私の素朴な経験の一例：鍵の開け閉めの際に、鍵とドア、その背景にある材料や制作者、建物や土地への感謝の念も持たず、惰性的で乱暴な鍵の開け閉めをしていたことを反省し、愛を込めて丁寧に開け閉めするようになったばかりです。)

神聖復活を志し生きる私達は、心に愛と余裕の薄い人生を卒業して、すべての想念・言動行為に愛と感謝を伴った生き方、大自然と一体化した生命本来の歓喜に満ちた生き方を取り戻す過程にあります。

それは、利益追求型の科学文明や経済至上主義の価値観が砂上の楼閣の如きものであったことを誰もが痛感する時期を通り抜けた先に展開される新しい文明が、人間の本来性である神聖を中心とした心の文明で、それこそが冒頭の生き方が展開される世界であることが、具体的にイメージできる段階に入ってきているからです。

未だ真理に心の眼を向けない世界人類も、いずれ生き方の軌道修正を迫られ、考え始める時句(ときしゅん)が来ます。何が本当に大事なことを…。何が誤った価値観だったのかを…。自分たちがどのように生きるべきかを…。人間という存在が本当は何者だったのかを…。そのような時が全人類に否応なく訪れるのです。

私達の使命は、その時に置いてきぼりになる人がいないように、本来あるべき人間の生き方を自らの想念・言動行為に率先して顕わし自らの心身に示すことです。それによって来るべき大変革の時期に際し、縁ある人々から「あの人のように生きればいいんだな」と思わず思っただき、結果として地球人類の意識の底上げすることになります。

そのために今私達が取り組むことは、私達の人間性を表から見ても裏から見ても断面を見られても、どこから見ても安定して神聖を顕わした人であるよう、心を準備万端に調べておくことです。

「敝(やぶ)るれば即ち新(あらた)なり」「旧き革袋に新しき酒は汲めない」などの言葉にもあるように、古い価値観や常識をいさぎよく脱ぎ捨てるタイムリミットがいよいよそこまで来ています。そのときに向けて私達は、これまで以上に守護の神霊との一体化に本気で取り組み、本当の消えてゆく姿の実践に取り組んでいます。

もちろん、外へ向けて祈ったり印を組んだりすることも大切です。しかし本当に大切なことは、祈っ

ているときの私達の心の立ち位置（霊位）が何処にあるか、印を組んでいるときの意識視座が神眼(真眼)になっているかどうかです。そこを意識して行ない続けてゆくと意識が深まってきて、私達の祈り心に慈愛が充ち満ち、一回一回の印を心を込めて行なうことで私達の印はよりパワフルなものになってまいります。

また、そのような面に意識を向けてひとつひとつの呼吸と意識と所作に愛を込めた運用を行なってゆきますと、必然的に呼吸と意識と所作を意識的かつ丁寧に行なっていることとなり、結果的に今を活かし真剣に生きている状態へと変わってゆきます。さらには惰性で活用していた五感もいつの間にかフル活用されて、真に肉体に神聖を顕わした人物像がそこに出来上がってきます。

それが当り前になりますと、自然に日常の一瞬一瞬に喜びを感じ感謝し感動して、その気持ちを縁ある人々と共有しながら喜びの輪を広げ、大自然に畏敬の念を抱きつつ、あらゆる生き物と共生している自分自身に変わってきます。

土曜日の夜はイメージでもかまいませんので、そのように人間の本来あるべき姿に立ち返った心を意識して、地球上に生じているあらゆる出来事や現象を批判・非難・評価せずに見つめながら、すべてを愛し慈しむ神の心で全人類と大自然と生きとし生けるものを抱きしめながら祈ってまいります。

それは、人が本当に進化(深化)する初めの一步が、現象世界の如何に関わらず、「〇〇は出来て(成って)いる！」という大調和の宇宙法則に則った意識をもって取り組み続けることだからです。個人の状況や世界情勢が今どうであろうと、『スタート(今)の意識』イコール『ゴール(結果)の現実』であることを堅く信じて、神界にすでに出来上がっている大調和世界を淡々と想念・言動行為に顕わし続け、この世に降ろし続けてゆきましょう。

※「始めの話」は3 ページ目と4 ページ目にあります。

2023 年 11 月 11 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 始めのお話

皆さま、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。今夜は案内メールにも書きましたように、“喜びと共にある心”をもって、すべての存在に祝福と感謝の光を放ってゆく日にしてまいりたいと思います。

人生のすべての瞬間に“生かされている喜び”をもって生きれば、私達はその豊かな心ゆえに、全感謝の生活を送ることが出来ます。この“喜ぶ心”と“感謝の気持ち”は表裏一体の関係でして、さらにはその“喜び”と“感謝”は、“心の余裕”を頂点としたトライアングルの関係で成り立っています。

もうすでに私達が片足を踏み入れている心の時代、神聖文明の世界は、心の豊かさを人類が取り戻した世界です。心の豊かさは裏を返せば心のゆとり、余裕でもあります。そのように観てゆきますと、喜びも感謝も心の余裕という土台の上に成り立つものであり、それが心の豊かさになっていることがわかります。

そのように、一瞬一瞬に喜びを抱きながらすべてに感謝し続ける心の余裕や豊かさを身に付けるためには、他を赦す以前に自分を赦し、他を愛する以前に自身を愛することです。

そうすると、息を吸ったり吐いたり出来ること、心臓が動き血液が流れていること、五感をとおして色々な物事を感じられること、瞬々刻々細胞が新陳代謝し続けていることをはじめ、生きてゆける大地があること、呼吸するための空気があること、生命維持のための水があること、それら自然界を循環させるために生きとし生けるものが存在していることなどに喜びを感じると共に、無上の感謝が湧き上がってきます。

そう言いますと、「何十年も前から自分を赦し愛することを実践しようと思っているけれど、それがなかなか出来ない」というお話を聞きます。それは、エゴさんが邪魔をして、自分の心のありのままを観つめることが出来なかったからです。

そのようなときに私がお勧めしているのは、とにかく起きている間、一日中の呼吸をユツタリとしたものにする練習です。何故それがいいのかと申しますと、エゴさんのような自己保存の本能に根ざした感情想念の発生条件が『呼吸が浅いとき』だからです。

呼吸をユツタリとしたリズムで行なう癖をつけますと、知らない間に肉体と紐付いた想念の在処(ありか)が臍下丹田に収まります。”臍下丹田“は肉体意識と霊体意識・神体意識の出入口ですから、取り越し苦労や把われの想いが奥の世界へ入って、代わりに霊体や神体の意識が表面に現われてきます。

そうなると、自然とエゴさんをも包み込めるゆとりを持てて、心の中を俯瞰できるようになります。そのようにして心の奥の暗い部分にいのちの光を照らして観つめてまいりますと、相反する両極の自分、たとえば加害者と被害者の自分が生息していた事実を観ることが出来ます。

具体的には、自分を赦していなかった自分と自分に赦されずふさぎ込んでいた自分を観たり、自分をホントに愛していなかった自分と自分に愛されずに長い間寂しがっていた自分の両方を観ることが出来ます。

それら両極の自分を「ああ、こんなところにいたんだね」と存在を認めてあげますと、その瞬間に自分が発見した心の中の自分達の背中に“消えてゆく姿”という名の天使の羽が現われて、見事に天に昇り

成仏してゆきます。

そのように心を観てゆくきっかけは、他人や社会に感じた想いです。誰かに何かを感じたら、その想いを自分に向け直して、そう思った原因を見つけてゆきます。そのようにして心の中に神聖なバランスを調えてゆきますと、自分の身の回りが喜ぶべきことで包まれていて、感謝せずにはいられない気持ちに自然となってゆきます。

本日はそのようなことを意識しながら、地球界に“生かされている喜び”の種を蒔いてまいります。そのとき、私達の本心・本体は、この世のすべてに祝福の光を振り撒いています。そのことに自信と確信を持ち、できればそれを当然認識にしながら、俯瞰する視座を意識して、地球にかかわるすべての状況と脳裡をよぎる想いを一望しながら、一切の想いを流れる雲のように見つち、『すべてを生かし育むいのちの大元からの光』を放ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。三分半の CD を使って行ないますので、眼を閉じて神聖の視座に焦点を合わせてお祈りください。私が「はい、ありがとうございます」と申し上げましたら目を開けてください。それでは始めます。